

フサヒゲルリカミキリの保護対策

(1) 種名 (学名)

フサヒゲルリカミキリ

(*Agapanthia japonica*)

環境省 RL2018：絶滅危惧 IA 類 (CR)

国内希少野生動植物種 (H28 指定)

保護増殖事業計画策定種 (R2 年度策定)



(2) 生態の概要

- ・カミキリムシ科の日本固有種です。
- ・成虫は体長 15～17mm で体は黒から紫藍色、上翅は紫藍から緑藍色の弱い金属光沢を持ち、触角は第 1、3 節端がフサ状になっています。
- ・成虫・幼虫ともユウスゲを食草とし、ユウスゲの花茎に産卵することから、ユウスゲの生育する草原に限って生息しています。
- ・幼虫はユウスゲの内部で成長・越冬し、翌年の 6～7 月にかけて羽化・脱出します。
- ・生態には未だ不明な点が多く残されています。

(3) 分布状況の概要

- ・かつては北海道や本州の各地に分布記録がありました。
- ・近年の生息地は岡山県の一部のみです。

(4) 減少の要因

全国的に森林化や開発などにより多くの草原が消失してしまったこと、春の山焼きや、その後の牛馬の飼料、建築資材等への利用を目的とした採草という伝統的な集落の営みが行われなくなったことにより、幼虫期の寄主植物として重要なユウスゲが減少するなど生息に適した草原が少なくなってしまったこと、マニア等による乱獲等が要因と考えられています。

(5) 中国四国地方環境事務所の取組

国内希少種に指定された平成 28 年度より、食痕や産卵痕を利用したモニタリング、好適な草原環境の調査や環境改善のための草刈などを実施しています。

このほか、環境省本省では、平成 30 年度から昆虫園等で飼育繁殖技術の開発に取り組んでいます。

(6) 他機関、NGO 等の取組

地元集落とボランティア団体「山焼き隊」によって山焼きが実施されています。

真庭市では生物多様性保全推進支援事業を活用し、山焼きのための機材購入などにより上記「山焼き隊」を支援しています。

倉敷市にある重井薬用植物園ではフサヒゲルリカミキリの食草であるユウスゲを蒜山で採取した種子から栽培し、環境省事業への協力として生息地へ移殖しています。

日本チョウ類保全協会では、生物多様性保全推進支援事業を活用し、フサヒゲルリカミキリの生息環境改善のための草刈りや個体群の補強を実施（令和元年、野生個体から採卵して育成した幼虫を生息地のユウスゲに移す）しています。

(7) 課題

現在の生息地では、平成 30 年春から「山焼き隊」が主体となって地元集落の協力も得て、山焼きが実施されています。一方で、山焼きのみではススキ類の繁茂によるユウスゲの減少を押さえられないことから、蒜山自然再生協議会や日本チョウ類保全協会によって草刈りも実施されていますが、草原の管理体制の強化が必要です。

加えて、シカの侵入によりユウスゲが食害を受ける可能性が指摘されています。